opusdei.org

黙想:聖ホセマリア (6月26日)

黙想のテーマ:「日常生活における聖性への呼びかけ」 「世界のただ中における観想 生活」「友愛の使徒職」

日常生活における聖性への呼びかけ

世界のただ中における観想生活

友愛の使徒職

私たちは、1975年6月26日の聖ホセマリアの天における誕生を再び記念

します。聖ホセマリアは今、私たち の最終目的地である祖国で、教会の すべての聖人たちとともに、また彼 の説教と創立者としての働きによっ て助けられて神の近くに生きるすべ ての人々とともに、神を賛美してい ます。彼は何度か、自分の大きな夢 は天国の片隅に隠れ、神の御心に よってオプス・デイで自分の子ども となったすべての人々と、この家族 の温かさに心を寄せている人々を見 ることだと語りました。1992年に ローマで行われた列福式で、聖ヨハ ネ・パウロ二世はこう述べました。 「福音に深く根ざした彼の霊的な メッセージの時官性と超越性は明ら かです | 、 聖ホセマリアの霊的 メッセージはさまざまな側面があり ますが、神から受けた光がそのすべ てを導いています。それは世界のた だ中で、聖性と使徒職への普遍的な 召命を人々に思い起こさせます。私 たちは皆すべての行いの中で、神の

近くにいることによって、幸福を見 出すように召されているのです。

「あるのはただ一つ、霊と肉からな る生活です。このたった一つの生活 が神に満ちたものとなり、霊魂とか らだ両方を聖化するものでなければ なりません。そして、目に見えない 神に出会うのは、この最も目に見え やすい物質的な事柄の中においてな のです。平凡な日常生活の中で主に 出会うことができるか、いつまで 経っても出会わないか、これ以外に 道はありませんしほ。おそらく私た ちは、厳しい仕事をこなしながら、 解決すべき問題でいっぱいの毎日を 過ごしています。あるいは、毎日の 決まりきった仕事が単調になり始め たり、特定の人との関係において特 別な困難に直面したりします。その ようなとき、私たちは、できるだけ 早くこれらの困難を乗り越え、その 後の静かな時を持ち、神との関係を 楽しむことができるようにすること

が最善だと、考えたくなるかもしれ ません。しかし聖パウロの言葉が私 たちを助けてくれます。「神の霊に よって導かれる者は皆、神の子なの です」(ローマ8・14)。聖ホセマリ アのメッセージは、平凡な生活の中 において神の霊に導かれるよう私た ちを招いています。神はこのような ときに私たちを忘れてはいません。 私たちを父の愛で助けようと、そこ で私たちを待っておられるのです。 「触れるものを次から次へと黄金に 変えたミダ王のように、皆さんもす べての人間的なものを神化すること ができるのです | 131。

聖ホセマリアが、キリストの隠された生涯と初代のキリスト者の生涯に、特別な愛情を抱いた理由は、容易に理解できます。主の隠された生涯において、私たちは、神ご自身が私たちと同じように、多くの点で辞私たちと同じように、あくのを見ます。初代のキリス

ト者の間において、ありとあらゆる 職業や背景を持つ普通の人々が、外 面上は何も変わることなしに、神の 光を自分の人生に取り込み、それに よって周囲の人々にも光をもたらす ようになった姿を見ることができま す。そして、この驚くべき現実は、 すべて私たちキリスト者が受けた洗 礼に基づいているのです。「洗礼の 恵みを聖なる道に実らせなさい。す べてを神に開かれたものとし、どの ような状況にあっても神に立ち返り なさい。聖霊の力がそれを可能にし ます。聖性とは結局のところ、あな たの人生における聖霊の実りだから です(ガラテヤ5・22-23参照) | 国。

「ところで人間とは異なもので、こんなに素晴らしいことも忘れ去り、 これほどの秘義にも慣れてしまいま す。人々と同じく仕事に没頭し、夢

中になり、緊張した毎日を送るキリ スト信者は、同時に神にも夢中にな らなければならないのです。私たち は神の子なのですから。神との親子 関係は喜びに満ちた真理であり、慰 めに満ちた秘義です。この関係は私 たちの霊的生活全般に大きな影響を 与えます。神の子であることを自覚 することによって天の御父に近づ き、御父をよく知り、愛することが でき、従って、内的な戦いにも希望 が湧き、幼い子どものように単純で 素直で信頼に満ちた心を持つことが できるようになるからです。しか も、神の子であることを自覚すれ ば、創造主にして父である神の御手 から出た全被造物を、愛と感嘆を もって眺めることができることで しょう。そして、社会にいながら世 を愛しつつ観想生活を送ることが可 能になるのですします。

聖ヨハネ・パウロ二世は、聖ホセマ リアの列福式において、「キリスト

に一致する洗礼によって、信者は主 との絶え間ない生き生きとした関係 を築くように召されている | ほと述 べました。オプス・デイの創立者 は、この世のただ中にある聖性は、 神の子としての祈りの生活という堅 固な岩の上に築かれて初めて可能に なるという明確な確信を持っていま した。子どもの父との対話は、どの ような状況にも適応し、自由な雰囲 気に包まれ、自分がいつも理解され ていることを知る者の信頼に満ちて います。聖ホセマリアが私たちを招 いている祈りの生活は、私たちがこ の世のただ中に住んでいながらも、 神秘主義者たちが到達した最高の霊 的頂点と師が比較することをためら わなかったほど、深いものです。

「祈りは霊的な建物の基礎である。 祈りは全能である」[7]。

「私たちの祈りを子としての祈り、 絶え間ない祈りとしましょう。Oro coram te, hodie, nocte et die、「私

は御身の御前で今日、昼も夜も祈り ます | (ネヘミア1・6)。夜も昼も 寝ているときも、私たちは観想する 者であり、睡眠は祈りの一部である と私がよく言うのを、聞いたことが ないだろうか。主は言われました: Oportet semper orare, et non deficere「気を落とさずに絶えず祈 らなければならない」 (ルカ18・ 1)。私たちはいつも祈らなければ なりません。私たちの内的生活にお いて、成功するたびに、また失敗す るたびに、神に向かう必要を感じな ければなりません。通りや広場を歩 くときも、絶えず祈っていなければ なりません。これがオプス・デイの 精神ですー腐る

聖ホセマリアは、2002年10月6日サンピエトロ広場で列聖されました。 教皇聖ヨハネ・パウロ二世は説教の

中で次のように述べました。「世界 を神に引き上げ、内側から変えてい くこと、これこそ聖なる創立者が今 日祭壇の栄光へとあげられるのを見 て喜ぶ、親愛なる兄弟・姉妹の皆さ んに指し示す理想です。彼の足跡を たどり、人種、階級、社会、年齢を 問わず、私たちは皆、聖性に召され ているという認識を、社会に広めな さい。第一に謙遜と奉仕、摂理への 委託、聖霊の声に絶えず耳を傾け る、福音的なスタイルを培いなが ら、自分自身が聖人となるために奮 闘しなさいしょう。

聖ホセマリアは何度か、オプス・ディを「社会の血流に静脈注射をするもの」と呼びました「III」。彼はオプス・ディの人々、そしてその形成を受ける活動に参加する人々は、世に近づくにあたり、世を彼らにとして異質なもの、彼らと違うものとしまで理解してはいけないと言ってもにた。むしろ、オプス・ディの精神に

よって活気づけられた人は、世の人 なのです。これは、福音の「パン 種」(マタイ13・33参照)のイメー ジを思い起こさせます。聖ホセマリ アは、キリスト信者は他の普通の 人々と同じであり、外見的なしるし では区別できないこと、そして、そ のことによってのみ、すべてのもの を内側から変えられることを強調し ました。そのためには、特別な戦略 は必要ありません。神に近いキリス ト者が、周囲の人々のよき友であろ うとするところでは、必ず伝道が行 われます。彼らは心に喜びをもたら すものを分かち合うからです。これ が聖ホセマリアの言う「友情と信頼 の使徒職上頭です。

「第一朗読では、神が人間をこの世におかれたのは『人がそこを耕し、守るようにされた』(創世記2・15)からであると聞きました。そして、私たちが歌った詩編(そして聖ホセマリアが毎週祈った詩編)では、キ

リストによって、私たちはすべての 国々を受け継ぎ、全地は私たちのも のであると語られています(詩編2・ 8参照)。この世界は私たちのもの であり、私たちの家であり、仕事で あり、故郷なのです。だから、私た ちが神の子であることを知っていれ ば、自分の家でよそ者のように感じ ることはできません。見知らぬ土地 に来た観光客のように人生を歩んだ り、未開の地を踏みしめるように、 恐る恐る街を歩いたりすることはで きません。世界は私たちの父なる神 のものであり、私たちのものなので す | 「127。

聖ホセマリアは、もしだれかが何かにおいて彼に倣うことを望むなら、それは聖母への愛であるべきだとよく言っていました。私たちは、世界のただ中で観想的な生活を送り、神の近くに生きる喜びを、多くの人々と分かち合うことができるように、

私たちの母に助けを求めることがで きます。

- [1] 聖ヨハネ・パウロ二世、説教、 1992年5月17日。
- [2] 聖ホセマリア『エスクリバー・デ・バラゲル師との会見集』114番。
- [3] 聖ホセマリア『神の朋友』221 番。
- [4] 教皇フランシスコ、使徒的勧告 『喜びに喜べ』15番。
- [5] 聖ホセマリア『知識の香』65番。
- [6] 聖ヨハネ・パウロ二世、説教、 1992年5月17日。
- [7] 聖ホセマリア『道』83番。

- [8] 聖ホセマリア、説教ノート、 1967年12月24日。
- [9] 聖ヨハネ・パウロ二世、説教、 2002年10月6日。
- [10] 聖ホセマリア、内的覚書、47番、1930年6月参照。
- [11] 聖ホセマリア、手紙37、10番。
- [12] フェルナンド・オカリス、説 教、2019年6月26日。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/meditation/mokusou-sei-josemaria/ (2025/12/16)